

# 宝くじ助成金で

## 視聴覚機材を購入しました

平成18年度宝くじ助成金を活用して、液晶プロジェクターやビデオカメラなど、防火防災の広報用視聴覚機材を購入しました。

これらの機材は防災訓練、講演会などで活用させていただきます。

また、地域で行う防火・防災訓練にも貸し出しができますので、希望される場合は総務課までご連絡ください。

◆問い合わせ先 総務課 総務担当  
☎6500 有線67762



宝くじは豊かさ築くチカラ持ち。



# 防災セミナーのお知らせ

■とき 2月25日(日)  
開演 午後1:30から(受付 午後1:00)  
■ところ 滋賀県立男女共同参画センター  
(近江八幡市鷹飼町)

■内容  
◎講演  
テーマ「わが家の防災、地域の防災」  
講師 (財)市民防災研究所  
細川 顕司 さん

◎事例発表  
テーマ「考えよう地域減災 みんなの命」  
たかしま災害支援ボランティアネットワーク  
「なまず」の皆さんによる地域減災啓発漫才  
(備えあれば憂いなし)、災害クイズ

■主催 東近江行政組合・東近江防災連絡協議会

参加を希望される方は、下記までご連絡ください。

◆問い合わせ先  
総務課 総務担当 ☎6500 有線67762

# 綿向雑感

日野町長 藤澤直広

綿向山の山  
肌に白雪が輝く冬景色。子どものころ、そりを作って雪の坂道で遊んだことを思い出します。

竹を割って節を削り、火にあぶり先っぽを曲げ、きりで穴を空け、釘を打ちみかん箱に固定する。さらにグレードアップしたそりは、前部と後部を分離させ進路が変更できるそりも作りました。木や竹を使った福玉鉄砲、弓矢、刀、竹馬などの遊び道具はみんなが作っていました。そして、山や田んぼが遊びの場でした。子どもが成長する過程で、勉強することと同じくらい遊ぶことも大切だと思います。

先月8日、「男女共同参画ひろば」での汐見稔幸先生の記念講演。少子化が叫ばれ、子育て支援の重要性が言われている中で、先生は「大人にとって便利な社会は子どもにとって不便利な社会。子どもがみんなで遊ぶ場もなくなった。1970年代までは、子どもは家庭だけでなく地域社会によって育てられた。子どもは地域社会へ『放牧』され夕方になれば厩舎(家)に帰り風呂焚きなどの仕事をし、役割があった。子どもたちは、遊びを通じて集団の中で仲間への配慮や助け合いや規律を知る。外で遊ぶことによって、体力や敏捷性、器用さを身に付ける。自然とのふれあいを実感し、五感が磨かれる」「集団でずっと子育てをしてきた人類が、最近では子育ての大部分を家庭で行うことになった。子育ての経験のない親が子育てをする。親にとっても子どもにとっても、大変なストレス」などと話され、「地域社会で子育てができる環境を、どう作るのかが問われている」「ぜひ、日野町は子育てがしやすい町になって欲しい」と締めくくられました。

子どもが育つということ、人が生きるということは基本的な社会の営みです。助け合うことができる、支え合うことができる温かい社会が求められています。

「日野町自律のまちづくり計画」の基本目標の一つに「まちの宝である子どもをまちぐるみで育てる」とあります。子どもの笑顔がふれるまちへ、さらに努力したいと思います。